

〈特集「ヴォイスとその周辺」〉

## アフリカーンス語におけるヴォイスとその周辺 Voice and related matters in Afrikaans

山藤 顕  
Akira Sando

東京外国語大学  
Tokyo University of Foreign Studies

**要旨：**本稿は、『語学研究所論集』第17号(2013, 東京外国語大学)の特集「ヴォイスとその周辺」における40項目のアンケートについて、アフリカーンス語のデータを提供するものである。

**Abstract:** This report contributes to the special cross-linguistic study on ‘voice and related matters’ (Journal of the Institute of Language Research 17, Tokyo University of Foreign Studies). The purpose of this paper is to offer Afrikaans data for the question of 40 phrases.

**DOI:** <https://doi.org/10.15026/0002001033>

**キーワード：**アフリカーンス語, ゲルマン語, ヴォイス

**Keywords:** Afrikaans, Germanic, Voice

### 1. はじめに

本稿は『語学研究所論集』第17号の特集である「ヴォイスとその周辺」の調査項目について20代男性のアフリカーンス語母語話者を中心に面談聞き取り調査を行った<sup>1</sup>ものである。調査の方法は、山藤(2023)・山藤(2024)で行った方法と同様であり、風間(2021)の英語の文章を見せたうえでアフリカーンス語に訳してもらう形である。協力者がうまく訳せなかった箇所に関しては、成田(2023)のドイツ語アンケートを参考にし、筆者が作成したアフリカーンス語の文章を用いて調査を行った。



本稿の著作権は著者が保持し、クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。  
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja>

<sup>1</sup> 山藤(2023)・山藤(2024)の協力者と同一人物である。また、一部の表現に関して、母語話者が正文と判定できるか悩んでいた箇所に関しては、80代女性のアフリカーンス語母語話者にも確認を行った。その箇所に関しては別途注をつける。

## 2. 言語データ（ヴォイスとその周辺）

### 1-a 【自動詞と他動詞の対立・自動詞による表現】

- (i) *Die deur het oop<ge>gaan.*  
 the door have.AUX open<PTCP>  
 ((風などで) ドアが開いた)
- (ii) *Die glas het ge-breek.*  
 the glass have.AUX PTCP-break  
 (グラスが割れた)

### 1-b 【自動詞と他動詞の対立・他動詞による表現】

- (i) *Hy het die deur oop<ge>maak.*  
 he have.AUX the door open<PTCP>  
 ((彼が) ドアを開けた)
- (ii) *Hy het die glas ge-breek.*  
 he have.AUX the glass PTCP-break  
 (彼はグラスを割った)

アフリカーンス語では、過去形の語彙が一部を除き消失しているため、過去のことを表わす場合は、ほとんどの場合現在完了形(het+過去分詞)が用いられる。「開く」「開ける」のような場合、(1a-i)の自動詞では *oopgaan* が、(1b-i)の他動詞では *oopmaak* のように異なる動詞が使われる。また、アフリカーンス語では同一形態で他動詞・自動詞を伴う表現もあり、(1a-ii)と(1b-ii)では同じ動詞である *breek* が自動詞的・他動詞的どちらの意味を持っている。

### 1-c 【自動詞と他動詞の対立・他動詞の受け身】

- Die deur is oop<ge>maak.*  
 the door be.AUX open<PTCP>  
 ((入り口の) ドアが開けられた)

他動詞の受け身の場合、助動詞+過去分詞のように受動形を用いる。この助動詞は、時制によって使い分けがあり、現在時制の場合は *word*、過去時制の場合は *is* となる。

### 1-d 【自動詞と他動詞の対立】

- Die deur het ge-breek.*  
 the door have.AUX PTCP-break  
 (ドアが壊れた)

(1-c)では受動形が用いられたが、(1-d)のような自動詞の場合は現在完了形が用いられる。

## 2 【自動詞の使役】

- (i) *Ek laat my broer opstaan.*  
 I let.AUX my brother stand up.INF  
 (私は(自分の) 弟を立たせる)

- (ii) *Ek het my broer laat opstaan.*  
 I have.AUX my brother let.AUX.INF stand up.INF  
 (私は (自分の) 弟を立たせた)

使役表現は, *laat*+不定詞で表される. (2-i)が現在形での表現, (2-ii)が現在完了形での表現となる. 現在完了形は *het* +過去分詞で表すため, 本来は *laat* に過去分詞を表す接頭辞である *ge-*をつけるはずであるが, 「～させた」のように使役を表す場合は, *gelaat* のような形をとらず, 代用不定詞である *laat* を用いる.

### 3 【他動詞の使役】

- (i) *Ek laat my broer 'n liedjie sing.*  
 I let.AUX my brother a song sing.INF  
 (私は (自分の) 弟に歌を歌わせる)
- (ii) *Ek het my broer 'n liedjie laat sing.*  
 I have.AUX my brother a song let.AUX sing.INF  
 (私は (自分の) 弟に歌を歌わせた)

他動詞の使役に対しても, 自動詞の使役と同じように *laat*+不定詞を用いる<sup>2</sup>.

### 4-a 【強制使役】

- (i) *Die ma het haar kind brood gaan laat koop.*  
 the mother have.AUX her child bread go.AUX let.AUX.INF buy.INF  
 ((遊びたがっている子供に無理やり) 母は子供をパンを買いに行かせた)
- (ii) *Die ma het haar kind brood laat gaan koop.*  
 the mother have.AUX her child bread let.AUX go.AUX.INF buy.INF  
 ((遊びたがっている子供に無理やり) 母は子供をパンを買いに行かせた)

強制使役の場合も, *laat*+不定詞の形をとる. また, 「～を買いに行かせた」のように「行かせる」が入った場合, (4a-i)と(4a-ii)のどちらも *koop* 「買う」が文末に来ることは変わらない. *laat* および *gaan* の語順に関しては, (4a-i)の方がより自然であるとの回答を得た.

### 4-b 【許可使役】

- (i) *Die ma het haar kind buite gaan laat speel.*  
 the mother have.AUX her child outside go.AUX let.AUX.INF play.INF  
 ((遊びに行きたがっているのを見て) 母は子供に遊びに行かせた)
- (ii) *Die ma het haar kind buite laat gaan speel.*  
 the mother have.AUX her child outside let.AUX go.AUX.INF play.INF  
 ((遊びに行きたがっているのを見て) 母は子供に遊びに行かせた)

<sup>2</sup> 成田(2023: 113)では, ドイツ語において被使役者を前置詞句で表すことも少なくないと述べているが, アフリカーンス語では同様のことができないと協力者から返答をもらった.

- (iii) *Die ma het haar kind toe<ge>laat om buite te gaan speel.*  
 the mother have.AUX her child allow<PTCP> for.COMP outside to go.AUX play.INF  
 (母親は外で遊びに行くことを子供に許した)

許可使役の場合、*laat* の表現と *toelaat* (英: allow) の表現がある。 *laat* の表現の際、(4b-i)と(4b-ii)はどちらも可能ではあるが、前者の方が強制的な要素が強いニュアンスがあると回答を得た。(4b-iii)の場合は、許した内容が *om ... te* で表される<sup>3</sup>。

#### 5-a 【直接の行為】

- Ek het my broer aan<ge>trek.*  
 I have.AUX my brother dress<PTCP>  
 (私は弟に服を着せた)

#### 5-b 【間接の行為】

- Ek het my broer daardie kler-e laat aantrek.*  
 I have.AUX my brother that cloth-PL let.AUX.INF dress.INF  
 (私は弟にその服を着させた)

(5-a)のような「着せた」の場合は、使役の *laat* + 不定詞の形は出ず、*aantrek* (英: dress) が用いられる。(5-a)では、主語が *aantrek* の目的語である弟に対して直接服を身に着けさせる意味となる。その一方で、「(弟自身に)着させた」のような間接の行為である(5-b)の場合は、使役である *laat* が現れる。

#### 6 【やりもらい、(話者から見ての) 授恩恵と受恩恵の違い】

- (i) *Ek het vir my broer die boek ge-gee.*  
 I have.AUX for my brother the book PTCP-give  
 (私は弟にその本をあげた)
- (ii) *?Ek het my broer die boek ge-gee.*  
 I have.AUX my brother the book PTCP-give  
 (私は弟にその本をあげた)

#### 7-a 【やりもらい、(話者から見ての) 授恩恵と受恩恵の違い】

- (i) *Ek het vir my broer die boek ge-lees.*  
 I have.AUX for my brother the book PTCP-read  
 (私は弟に本を読んであげた)
- (ii) *\*Ek het my broer die boek ge-lees.*  
 I have.AUX my brother the book PTCP-read  
 (私は弟に本を読んであげた)

<sup>3</sup> この *om ... te* はアフリカーンス語でよく使われる表現であり、*om* の直後には動詞以外の要素、*te* の直後に不定詞が現れる。また、*om* の直後に何もなかった場合でも *om te* 不定詞という形をとる。

*Ek gaan kerk toe om Klavier te speel.* 「私はピアノを弾くために教会へ行く」

*Ek het na Tokio toe gegaan om te werk.* 「私は働くために東京へ行った」

7-b 【やりもらい, (話者から見ての) 授恩恵と受恩恵の違い】

- (i) *My broer het vir my die boek ge-lees.*  
 my brother have.AUX for me the book PTCP-read  
 (兄は私に本を読んでくれた)
- (ii) *\*My broer het my die boek ge-lees.*  
 my brother have.AUX me the book PTCP-read  
 (兄は私に本を読んでくれた)

日本語の「～してあげる」「～してくれる」のような恩恵の授受を表わす表現は, アフリカーンス語では *vir* (英: for) で表される。「読んであげた」「読んでくれた」のようにする際に, *vir* がない (7b-ii) のような場合は非文となる。その一方で, 単に「(物)をあげた」という表現のとき, *vir* がない場合は (6-ii) のように非文とはいえないものの, 不自然であるとの回答を得た。

7-c 【テモラウ】

- Ek het my ma my har-e laat sny.*  
 I have.AUX my mother my hair-PL let.AUX.INF cut.INF  
 (私は母に髪を切ってもらった)

「～してもらう」の場合は, 使役である *laat* を用いる。

8-a 【再帰】

- (i) *Ek het my lyf ge-was.*  
 I have.AUX my body PTCP-wash  
 (私は (自分の) 体を洗った)
- (ii) *Ek het my ge-was.*  
 I have.AUX myself.REFL PTCP-wash  
 (私は (自分の) 体を洗った)
- (iii) *Ek het myself ge-was.*  
 I have.AUX myself.REFL PTCP-wash  
 (私は (自分の) 体を洗った)

*my lyf* 「自身の体」という表現と, 再帰代名詞の *my* / *myself* どちらも使われる。*myself* が形態的・意味的にも再帰代名詞である一方, *my* の場合は形態的には通常の人称代名詞だが意味的に再帰代名詞として用いられている。*my* も *myself* も意味は変わらない。

8-b 【再帰】

- Ek het my hand-e ge-was.*  
 I have.AUX my hand-PL PTCP-wash  
 (私は手を洗った)

## 8-c 【再帰】

*Hy het sy eie hand-e ge-was.*  
 he have.AUX his own hand-PL PTCP-wash  
 (彼は手を洗った)

具体的な身体部位を表現する場合, (8-b)では *my hande* のように表わすだけだが, 主語が3人称の場合, (8-c)のように主語と同一を示すために *eie* が現れる. *eie* がない場合は, 「彼自身の手を洗った」「別の彼の手を洗った」どちらの解釈も可能となる.

## 9 【自利態】

- (i) *Ek het vir my die boek ge-koop.*  
 I have.AUX for me the book PTCP-buy  
 ((自分のために) 私はその本を買った)
- (ii) *Ek het vir myself die boek ge-koop.*  
 I have.AUX for myself the book PTCP-buy  
 ((自分のために) 私はその本を買った)
- (iii) *Ek het my die boek ge-koop.*  
 I have.AUX me that book PTCP-buy  
 ((自分のために) 私はその本を買った)
- (iv) \**Ek het myself die boek ge-koop.*  
 I have.AUX myself the book PTCP-buy  
 ((自分のために) 私はその本を買った)

自利態の場合, (9-i)や(9-ii)のように *vir* を用いて表す. *vir* がない場合, (9-iii)では許容されるが, きわめて話し言葉的な表現であるとの回答を得た<sup>4</sup>. また, (9-iv)に関しては非文となる.

## 10 【相互】

- (i) *Hulle was besig om mekaar te slaan.*  
 they be.PST busy for.COMP each other to hit.INF  
 (彼らはお互いに殴り合っていた)
- (ii) *Hulle het mekaar ge-staan en slaan.*  
 they have.AUX each other PTCP-stand and hit.INF  
 (彼らはお互いに殴り合っていた)
- (iii) *Hulle was aan die baklei toe ek aan<ge>kom het.*  
 they be.PST on the fight.NMLZ when I arrive<PTCP> have.AUX  
 (彼らは私が着いたときに喧嘩をしていた)

「互いに」のような相互代名詞は *mekaar* (英: each other) で表される. また, 「殴り合っていた」のような進行表現の場合は, アフリカーンス語では3種類あり, 上記のどの言い方も可能であるとの回答を得た. ただし, (10-iii)のような場合, *slaan* (英: hit) を使わず, *baklei* (英: fight) を使っているが, この際には相互代名詞である

<sup>4</sup> この(9-iii)の文に関しては世代によって揺れがあり, 80代女性は非文判定をしている.

mekaar が用いられない。

#### 11 【衆動】

*Hulle het almal saam stad toe ge-gaan.*  
 they have.AUX all together city to.POSTP PTCP-go  
 (その人たちは (みんな一緒に) 街へ行った)

「一緒に」のような表現は saam で表す。

#### 12 【自発】

*Die fliek laat 'n mens huil.*  
 the movie let.AUX a person cry.INF  
 (その映画は泣ける (その映画を見ると泣いてしまう))  
 使役である laat が用いられる。

#### 13-a 【意志／無意志】

*Ek het die eier oop<ge>breek.*  
 I have.AUX the egg crack<PTCP>  
 (私は卵を割った)

#### 13-b 【意志／無意志】

*Ek het die glas perongeluk ge-breek.*  
 I have.AUX the glass accidentally PTCP-break  
 ((うっかり落として) 私はコップを割った／割ってしまった)

意志・無意志に関わらず het ... gebreek が用いられる。無意志的に表すのであれば副詞の perongeluk (英: accidentally) が用いられる。

#### 14-a 【随意の不可能と不随意の不可能】

*Gister het ek te veel koffie ge-drink, so ek kon*  
 yesterday have.AUX I too much coffee PTCP-drink so I could.AUX.MOD.PST  
*nie slaap nie.*  
 not.NEG sleep.INF not.NEG  
 (きのう私はコーヒーを飲みすぎて (飲みすぎたので) 眠れなかった)

#### 14-b 【随意の不可能と不随意の不可能】

*Gister het ek te veel werk ge-had om te doen, so ek*  
 yesterday have.AUX I too much work PTCP-have for.COMP to do.INF so I  
*kon nie slaap nie.*  
 could.AUX.MOD.PST not.NEG sleep.INF not.NEG  
 (きのう私は仕事がたくさんあって (たくさんあったので) 眠れなかった)

随意・不随意関わらず、可能の助動詞である *kan* の過去形 *kon* と否定詞の *nie* を組み合わせた表現が用いられる。

#### 15 【全体と部分・主体・一時的】

- (i) *Ek het 'n hoofpyn.*  
I have a headache  
(私は頭が痛い)
- (ii) *Ek het 'n kopseer.*  
I have a headache  
(私は頭が痛い)
- (iii) *My kop pyn.*  
my head pain  
(私の頭が痛い)

感覚主体を表わす言い方は(15-i)や(15-ii)のように *ek* を主語とするもの、(15-iii)のように *my kop* (英: my head) を主語とする 2 通りの言い方がある。 *hoofpyn* はフォーマルな、 *kopseer* はカジュアルな表現として用いられる。

#### 16 【全体と部分・主体・恒常的】

- (i) *Sy het lang har-e.*  
she have long hair-PL  
(彼女は髪が長い)
- (ii) *Haar har-e is lank.*  
her hair-PL be.PRS long  
(彼女は髪が長い)

(16-i)のように、「彼女」を主語にする表現、(16-ii)のように「髪」を主語にする表現がある。

#### 17-a 【全体と部分・対象・接触／結果状態が継続的】

- (i) *Hy het sy skouer ge-tik.*  
he have.AUX his shoulder PTCP-tap  
(彼は(別の)彼の肩をたたいた)
- (ii) *Hy het hom op die skouer ge-tik.*  
he have.AUX him on the shoulder PTCP-tap  
(彼は(別の)彼の肩をたたいた)

#### 17-b 【全体と部分・対象・接触／結果状態が継続的】

- (i) *Hy het sy arm ge-gryp.*  
he have.AUX his arm PTCP-grab  
(彼は(別の)彼の腕をつかんだ)

- (ii) *Hy het hom aan die arm ge-gryp.*  
 he have.AUX him by the arm PTCP-grab  
 (彼は (別の) 彼の腕をつかんだ)

(17a-i)や(17b-i)のように身体部位を名詞句で表すものと, (17a-ii)や(17b-ii)のように *hom* (英: him)を目的語とし, 目的語の身体部位を前置詞句で表す言い方がある.

#### 18-a 【知覚構文】

- (i) *Ek het hom sien kom.*  
 I have.AUX him see.AUX kom.INF  
 (私は彼がやって来るのを見た)
- (ii) *Ek het ge-sien dat hy ge-kom het.*  
 I have.AUX PTCP-see that he PTCP-come have.AUX  
 (私は彼がやって来るを見た)

知覚構文では, 単文的表現である(18a-i)と複文的表現である(18a-ii)の2種類で表される.

#### 18-b 【知覚構文】

- (i) *Ek weet dat hy vandag sal kom.*  
 I know that.COMP he today will.AUX come.INF  
 (私は彼が今日来ることを知っている)
- (ii) *Ek weet hy sal vandag kom.*  
 I know he will.AUX today come.INF  
 (私は彼が今日来ることを知っている)

認識表現は, (18a-ii)や(18a-iii)のように複文的な表現で用いられ, 単文的表現は認められない.

#### 19 【引用文中の再帰】

- (i) *Hy het ge-dink hy sou wen.*  
 he have.AUX PTCP-think he would.AUX.MOD.PST win.INF  
 (彼は自分 (のほう) が勝つと思った)
- (ii) *Hy het ge-dink hy sou self wen.*  
 he have.AUX PTCP-think he would.AUX.MOD.PST self.EMPH win.INF  
 (彼は自分 (のほう) が勝つと思った)

(19-i)の *hy sou wen* だけでは彼自身か別の彼かは判断できず, 文脈による. 文脈がない場合, (19-ii)のように *self* を用いて表す.

#### 20-a 【部分的に及ぶ動作と全体に及ぶ動作】

- Ek het van die water (in die glas) ge-drink.*  
 I have.AUX of the water in the glass PTCP-drink  
 (私は (コップの) 水 (の一部) を飲んだ)

## 20-b 【部分的に及ぶ動作と全体に及ぶ動作】

- (i) *Ek het al die water (in die glas) ge-drink.*  
 I have.AUX all the water in the glass PTCP-drink  
 (私は (コップの) 水を全部飲んだ)
- (ii) *Ek het die hele glas water ge-drink.*  
 I have.AUX the whole glass water PTCP-drink  
 (私は (コップの) 水を全部飲んだ)
- (iii) *Ek het die water ge-drink.*  
 I have.AUX the water PTCP-drink  
 (私はその水を全部飲んだ)
- (iv) *Ek het water ge-drink.*  
 I have.AUX water PTCP-drink  
 (私は水を飲んだ)

部分的に及ぶ動作では *van* が、全体を及ぶ動作の場合は *al* が用いられる。(20b-iii)のように *van* も *al* を使わず、定冠詞のみをつけた *die water* の場合は *al* と同様に水を全て飲んだと解釈でき、(20b-iv)のような無冠詞の場合は部分とも全体とも断定できない。

## 21 【恒常的な否定文】

- Hy eet nie vleis nie.*  
 he eat not.NEG meat not.NEG  
 (彼は肉を食べない)

恒常的な否定の場合は *eet* (英: *eat*) + 否定詞 *nie* で表す。

## 22-a 【感覚述語・非人称文／感覚主体の存在が感じられない、より客観的な表現】

- Dis koud vandag.*  
 it's cold today  
 (今日は寒い)

天候表現のような感覚主体の存在が感じられない客観的な表現を表わす場合は非人称構文を用いる。(22-a)で用いられている *dis* は、*dit is* (英: *it is*)の融合形である。

## 22-b 【感覚述語・非人称文／斜格主語】

- (i) *Ek kry koud.*  
 I get cold  
 (私は (何だか) 寒い (私には寒く感じる))
- (ii) *Ek voel koud.*  
 I feel cold.  
 (私は (何だか) 寒い (私には寒く感じる))

(22b-i)のように、*kry* (英: *get*)を使う方がより自然であるが、(22b-ii)のように *voel* (英: *feel*)を使う場合も許容

できると回答を得た。

23 【(感情主体が受動的である) 感情述語】

*Ek was verbaas dat daar so baie mens-e was.*

I be.PST surprised.ADJ that there so many person-PL be.PST

(人がとても多かったことに私は驚いた)

感情述語である「驚いた」のような場合、アフリカーンス語では形容詞の *verbaas* が用いられる。

24 【現象文・現場での直接体験】

*Dit het begin reën.*

it have.AUX begin.AUX rain.INF

(雨が降り始めた)

現場での直接体験を表現する「雨が降る」の場合は, *dit reën* (英: it rains) と *begin* 「始める」を組み合わせる。

25 【中間構文】

*Hierdie boek verkoop goed.*

this book sell good

(この本はよく売れる)

*verkoop* (英: sell) を自動詞として用いて, 「この本は売れる」のように表わす。

略号一覧

- 接辞境界 <> 接中辞 ADJ 形容詞 AUX 助動詞 COMP 補文標識 EMPH 強調 INF 不定詞  
MOD モダリティ NEG 否定 NMLZ 名詞化 PL 複数 POSTP 後置詞 PRS 現在 PST 過去 PTCP 分  
詞 REFL 再帰

参考文献

- 風間伸次郎(2021)「英語: 特集補遺データ「受動表現」「アスペクト」「モダリティ」「ヴォイスとその周辺」「所有・存在表現」「他動性」「連用修飾複文」「情報構造と名詞述語文」「情報構造の諸要素」「否定, 形容詞と連体修飾複文」, 『語学研究所論集』 25, pp.139-171.
- 山藤顕(2023)「アフリカーンス語における受動表現」『語学研究所論集』 27, pp.1027-1032.
- 山藤顕(2024)「アフリカーンス語におけるアスペクト・モダリティ」『語学研究所論集』 28: 7.
- 成田節(2023)「ドイツ語のヴォイスとその周辺」『語学研究所論集』 27, pp.111-121.

執筆者連絡先: aki.sando@gmail.com

原稿受理: 2024 年 11 月 10 日